

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

人から認められることの喜び・勉強がわかることの楽しさ・様々な個性との触れ合いを体験することにより、生徒が自分の将来を創造する意欲と能力を身につける学校をめざす。

- 1 基礎学力の定着を図ることで、自己実現できる人材を育成する。
- 2 自尊感情や規範意識をもち、自ら判断し行動できる人材を育成する。
- 3 多様な価値観を認めることができ、人と協働できる人材を育成する。
- 4 生徒の地域貢献活動や地域人材を生かした教育活動などを通して、地域と連携する学校をめざす。

2 中期的目標

1、基礎学力を定着させる取り組み

(1) 授業や課外の学習活動を充実させる

- ア 生徒の状況により合った授業形態（習熟度別少人数授業・T T・グループ学習など）を研究し、授業改善に取り組む。
 - イ 生徒の現状に合った教育課程を実践するためにも、教育課程についての検討を継続的に実施する。
 - ウ 「朝活動」で、基礎学力の向上と学習に取り組むための姿勢づくりに努める。
 - エ 課外学習等の実施方法を工夫し、生徒一人ひとりの課題に対応した学習支援活動を実施する。
 - オ 2・3年生ではステップアップクラスを編成し、個々に応じた内容や進度の授業を展開する。
- ※学校教育自己診断で「授業に工夫」の肯定率（平成27年度58%）を平成30年には70%以上にする。

(2) 分かる授業、充実した授業づくり

- ア 授業力向上のために、授業形態や授業方法などの研鑽に努め、校内外での研修・交流をおこなう。
 - イ 環境を整え、ICT機器や視聴覚教材を活用した授業を積極的に導入する。
 - ウ 授業アンケート・学校教育自己診断・基礎学力診断テスト等の情報を分析・検討し、授業改善につなげる。
- ※学校教育自己診断で「授業理解」の肯定率（平成27年度44%）を平成30年には60%以上にする。

2 自尊感情や規範意識を育てる取り組み

(1) 社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成

- ア 新入生研修（校外研修や入学直後のオリエンテーション）を充実させ、学校への適応を促進する。
 - イ 「身だしなみ」「正しい言葉づかい」「あいさつ」「遅刻」についての指導を徹底させて、基本的な生活習慣を定着させる。
 - ウ 部活動や学校行事の活性化を図り、人間関係形成力、自己表現力の育成に努める。
 - エ ボランティア活動、体系的なキャリア教育、校内美化&緑化作業などにより、生徒の自尊感情を育成する。
 - オ LHRや総合学習での取り組みを通して「他者への思いやり、心づかい」ができる社会人としての基礎を身につけさせる。
- ※学校教育自己診断で「先生の指導」の肯定率（平成27年度48%）を平成30年には60%以上にする。

(2) 生徒理解の促進と相談体制の確立

- ア 生徒に関する情報共有を徹底することにより、課題のある生徒を早期に発見・対応し、不登校や中途退学を減らす。
- イ 生徒の実態把握のため、家庭連絡・家庭訪問に努め、中学校とも連携する。
- ウ 外部人材も活用しながら、教育相談体制と支援教育体制の充実に取り組む。

3 人と協働できる人材を育成する取り組み

(1) 夢と志を育むキャリア教育の確立

- ア 3年間のキャリア教育、進路指導を体系的に実施することで就職や進学の実績に結びつけ、高い生徒の進路決定率を保持する。
 - イ 外部講師や地域・OBの人材を活用することで、生徒が自らの将来を創造する意欲を育てる。
 - ウ インターンシップや職場見学を充実させることにより、生徒の進路実現を促進する。
 - エ 部活動を活性化させ「体育コース」を充実することで、規律正しく協調性のある人材育成を促進する。
- ※平成30年まで、卒業時の進路決定率85%以上を継続する。（平成27年度90%）

4 地域と連携するための取り組み

(1) 地域との交流

- ア 生徒一人ひとりの状況を把握し、適切な支援を実施するために、保護者・地域・中学校と連携する。
- イ 清掃ボランティア活動や地域行事への参加などを通して、地域との交流を深める。
- ウ P T A活動を活性化させ、保護者と教職員が力を合わせて学校づくりを進める。

(2) 広報活動の充実

- ア 学校説明会、体験入学、中学校訪問、出前授業、地域との交流を充実させる。
- イ 学校HP、学校案内を最大限有効活用し、本校教育活動について情報発信する。

5 学校の運営体制に対する取り組み

(1) 学校改革の推進

- ア 運営委員会を中心に本校の将来構想や学校改革の取り組みについて検討し、学校改革を推進する。
- イ 研修などを計画的に企画し、教員の自己改革のための学びを継続させる。
- ウ 校内組織の見直しやICTの活用等で、校務の効率化を図る。
- エ 安全で安心な学校生活が過ごせるように、校内環境の改善に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
<生徒> ・「授業がわかりやすく楽しい」4割が肯定的回答。 参加体験型、グループ学習、ICT機器の活用など授業法を工夫するとともに、評価方法を工夫し、達成感のある授業を実施する必要がある。 ・「基本的な生活習慣の確立」半数が肯定的回答。時間を守ること、挨拶をすること、服装を整えることに対する意識は年々向上している。授業に集	<第1回 6/9開催> ・キャリア教育の講師として、同窓会（卒業生）を利用することも考えてほしい。 ・学校の教育活動を中学校の先生にも伝えていくことが大切だ。 ・学校を地域にどうアピールしていくか考えてほしい。 <第2回 11/17開催>

<p>中する指導もさらに充実させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「部活動への取組」4割が肯定的回答。部活動の加入率がなかなか上昇しない。今後も加入率上昇に取り組みたい。アルバイトとの両立が課題。 ・「生徒会活動」「行事」半数が肯定的回答。行事については、参加する生徒が年々増え、中身も充実してきている。今以上に、生徒が自主的に取り組む部分をふやし、達成感を高めたい。 ・「進路」「人権」「防災」例年同様、約6割が肯定的回答。継続を基本に、指導方法の改善や内容のバランスを考える。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事への参加」が6割、「PTA活動への参加」が2割の肯定的回答を得たのは、直近3年間で初。より多くの保護者に参加してもらえるよう参加のしかたや周知方法などをさらに工夫していきたい。 <p><教職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校運営に教職員の意見」4割が肯定的回答。より多くの教職員が学校運営に参加しようとする職場作りに取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の良い所や頑張っている所とところを外部に向けて情報発信してほしい。 ・就職をめざす場合、欠席日数は影響が大きいことをしっかりと指導してやってほしい。 <p><第3回2/17開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉尾高校の教育活動の特色を作っていく必要がある。 ・トップダウンよりボトムアップする教職員組織であってほしい。 ・学校が楽しいと思える生徒を増やす工夫を続けてほしい。 ・進路実績や教育活動についての広報をより充実させ、入学者数の状況を改善してほしい。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力を定着させる	(1) 授業や課外の学習活動の充実	ア・習熟度別少人数授業・TT・グループ学習・プレゼンなど、生徒に興味関心を持たせるような授業形態の導入に取り組む。 イ・課外の学習活動等により、成績不振を原因とする留年生を減少させる。 ウ・各種検定の受験を推進し、資格を取得することにより、生徒の自尊感情と学習意欲を高める。	ア・学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率 62%以上 (H27: 58%) イ・成績不振が原因の留年者数を20%以上減少 (H27: 23名) ウ・講座や各検定の受験者数 10%以上上昇 (H27: 186名)	ア・「授業に工夫」の肯定率 51.7% - 6% (△) イ・18名-22% (◎) ウ・英検は増えたが漢検、情報が減り166名-11% (△)
	(2) 分かる授業、充実した授業づくり	ア・基礎学力診断テストの分析結果を利用し、各学年・教科の平常授業が、生徒の基礎学力の定着や学習意欲の向上につながっているのかを検討し、授業改善に生かす。 イ・各教員が「授業アンケート」の結果を分析し、授業改善を考える「振り返り」を行う。 ウ・授業研究週間を実施し、教員相互の授業見学と授業に対する意見交換を行うことにより各教員の授業力向上に取り組む。	ア、イ、ウ (全て) ・学校教育自己診断の「授業理解」の肯定率 50%以上をめざす (H27: 44%)	アイウ 「授業理解」の肯定率は 43.2% (△)
2 自尊感情や規範意識を育てる	(1) 社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成	ア・「授業規律」、「服装頭髪」、「遅刻」等の生徒指導にあたっては、生徒に寄り添う気持ちをもって、粘り強く取り組む。 イ・LHRや総合学習の時間を中心に、「他者を思いやる心」を育てる取り組みを充実させる。 ウ・ボランティア地域清掃活動などを通して、社会の一員である事を自覚させる。 エ・クラス委員の活動を充実させて、文化祭、体育祭、校内美化や校内緑化等の活動を充実させる。 オ・部活動紹介や部活動体験週間を改善し、部活動の活性化を図る。	ア・学校教育自己診断で「先生の指導」の肯定率 52%以上をめざす (H27: 48%) イ・学校教育自己診断で「社会のルール」「人権」に対する肯定率 60%以上をめざす (H27: 56%) ウ・地域清掃活動 (クリーンワーク) の参加者数 10%以上上昇 (H27: 404名) エ・学校教育自己診断で「生徒会活動」に対する肯定率 55%以上をめざす (H27: 48%) オ・部活動加入率 35%以上をめざす (H27: 29%)	ア・「先生の指導」の肯定率 44.1% - 4% (△) イ・社会のルールの肯定率 53.7% 人権の肯定率 57.8% (△) ウ・クリーンワーク参加者数 412名+2% (△) エ・「生徒会活動」の肯定率 48% (△) オ・部活動加入率 31% (△)
	(2) 生徒理解の促進と相談体制の確立	ア・SSWの導入、「居場所カフェ」の充実など、生徒の個々の問題に対応する学校の体制を充実させる。 イ・生徒の実態把握のため、学警連絡・中高連絡の充実に努め、中学校訪問や家庭訪問に積極的に取り組むことで、保護者、中学校、地域との連携強化を図る。 ウ・要配慮生徒に対する校内体制の充実に取組み、諸課題を解決する。	ア・学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率 55%以上をめざす (H27: 47%) イ・進級・卒業率を昨年度より5%以上上昇させる。(H27: 78%) ウ・校外行事が円滑に実施できたか	ア・「生徒相談」の肯定率 47.3% (△) イ・進級卒業率 83% +5% (○) ウ・修学旅行は無事終了 (○)
3 人と協働できる人材を育成する	(1) 夢と志を育むキャリア教育	ア・職業適性診断テスト、インターンシップ、職場見学、進路別・分野別説明会、大学訪問、奨学金説明会等を体系的に計画し生徒の進路実現に結びつける。 イ・基礎学力診断テストの分析結果を利用し、生徒の将来の可能性について、学年と連携しながら分析検討を進める。 ウ・外部講師、地域人材や卒業生などの活用により、生徒の進路意識を高める。 エ・部活動の活性化を図り、「体育コース」を充実させる。	ア・就職内定率 100%、進路決定率 85%以上をめざす。(H27: 90%) イ・1学年末の進路希望調査で進路希望未決定者を20%以下にする (H27: 30%) ウ・学校教育自己診断における進路関連事項で肯定率 70%以上をめざす (H27: 62%) エ・部活動加入率 35%以上をめざす (H27: 29%)	ア・進路決定率 88.5% (○) イ・進路未決定者 23.7% (△) ウ・進路関連事項の肯定率 63.9% (△) エ・部活動加入率 31% (△)

府立泉尾高等学校

4 地域と連携する	(1) 地域との交流	ア・様々な機会を生かして、地域の幼稚園、介護施設、区役所、企業等と積極的に交流する。 イ・P T A活動の活性化のため、学校行事等に来校する保護者を増やす。	ア・地域イベントなどを通じて、年3回以上の交流機会を設ける。 イ・体育祭、授業見学、文化祭など行事に来校する保護者数の10%以上増加 (H27: 319名)	ア・参加イベント ①ものづくりフェスタ ②インターシップ ③24時間テレビ ④進路行事(◎) イ・行事等で来校した保護者数 378名+18%(◎)
	(2) 広報活動の充実	ア・学校案内パンフレットの内容をより本校教育活動の特徴が情報発信できるものに改良する。 イ・学校説明会、体験入学、中学校訪問、中高連絡会等の時期や内容について効率化を図る。 ウ・ホームページのデザイン及び構成を改良する。	アイウ (全て) ・説明会等で本校を訪問する中学生数を20%以上上昇 (H27: 210名) ・入試応募生徒数の定員確保をめざす。(H27: 187名)	・説明会に参加した中学生数 203名 (△) ・入試応募生徒数 186名 (△)
5 学校の運営体制	(1) 学校改革の推進	ア・運営委員からのボトムアップを柱とする学校改革を推進する イ・計画的な教職員研修の実施 ウ・各学年の連携をより強化した学校運営 エ・校内の環境改善	ア・運営委員から、学校改革に伴う新しい企画を提案できたか イ・校内研修の回数や内容について年度当初に調整できたか ウ・教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率10%以上上昇をめざす (H27: 59%) エ・年間で3件以上改善できたか。	ア・運営委員は全員が新校WG (ワキソウグループ) に参加して取り組んでいる(○) イ・校内職員研修 ①進路 6/6 ②教育相談 8/26 ③虐待 10/13 ④授業力 11/7 ⑤安全衛生 12/6 ⑥学習評価 12/16 (◎) ウ・「学年間連携」の肯定率 57% (-2%) (△) エ・①全HR教室の扇風機を更新 ②学校として2台目のAED設置 ③図書室に一人用閲覧イスを配置 (○)